

東北SDGs未来都市サミット・ シンポジウム



各市町の概要説明と主な取組





東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム

パネルディスカッション資料 各市町の概要説明と主な取組

東松島市長 渥美 巖



HigashiMatsushima

SDGs未来都市 東松島市



東松島市の概要



- 人口：40,121人（2018.12.1現在）
（震災前人口：43,142人）
- 面積：101.86km²



【位置と気候】

東松島市は、太平洋に面し、宮城県のほぼ中央にあり石巻市、松島町に隣接しています。JR仙石線、三陸自動車道が市内中央部に走り、仙台市から約40分程度。

東北地方では暖かく積雪が少なく、温暖な地域です。

【市花：桜】



【市木：松】



【体験と交流】

東松島市は、海、山、川の自然がそろい、それぞれが素晴らしい景観を形成しています。特に、海水浴や潮干狩り、遊覧船、釣りなどのマリンレジャーが楽しめる場が豊富で、震災前は年間約110万人の観光客が訪れていました。

また、航空自衛隊松島基地では、毎年夏に航空祭が開催され、ブルーインパルスの展示飛行などを目当てに、全国から航空ファンが訪れていました。





東日本大震災の被災状況

浸水地域は市街地の65% (全国の被災自治体中 最大)

平成30年12月末現在

■ 人的被害 (市民)

死者	1,109人
行方不明者	24人
計	1,133人 (全住民の約3%)

■ 家屋被害

全壊世帯	5,513棟
大規模半壊	3,060棟
半壊世帯	2,500棟
計	11,073棟 (全世帯の約73%)

平成30年12月末現在

■ 復興予算 (執行額)

事業費	146,350,000千円
国費	118,760,000千円





「創造的復興」を目指す復興計画

「復興まちづくり計画」と「環境未来都市構想」の
2本の計画を同時に進行

11 住み続けられる
まちづくりを



東日本大震災

「復興まちづくり計画」
"Build Back Better"

「環境未来都市構想」
"FutureCity" Initiative



創造的震災復興

持続的に発展する

「東松島市」

の実現

◆震災がれき発生量 **109万8000t**
全体の **約97%** をリサイクル
(市で発生する一般廃棄物 **110年分**)

全量リサイクルした 津波堆積物
216万800t

参考 (1 t 当たりの処理単価)

東松島市 18,000円

石巻市 45,000円



震災がれきリサイクル



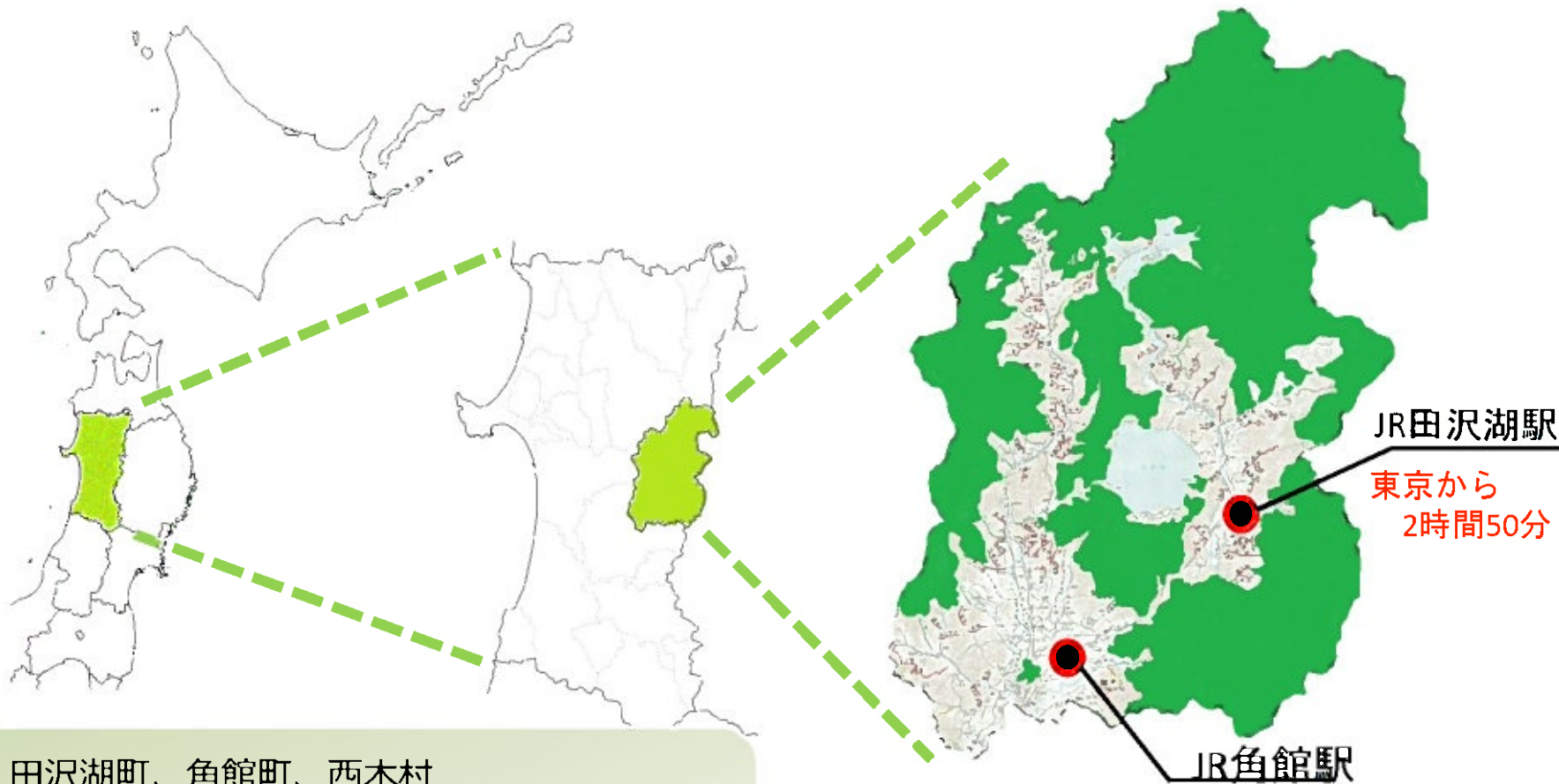
SDGs未来都市仙北市の取組み紹介

各市町の概要説明と主な取組

秋田県仙北市長 門脇光浩



仙北市の紹介



田沢湖町、角館町、西木村

平成17年合併「仙北市」誕生

人口：26,422人（10,601世帯）H30.12.31現在

市面積：1,093.56平方キロメートル

観光客数：年間約520万人

<財政> H29決算

歳入：20,818百万円

歳出：19,932百万円

<産業> 総生産額（H26）

第一次：3,753百万円

第二次：13,429百万円

第三次：59,358百万円

仙北市の紹介



水深日本一 田沢湖



乳頭温泉郷



湧出量日本一 玉川温泉



玉川温泉 岩盤浴



西木のかたくり群生地



桧木内川堤の桜



角館武家屋敷通り【桜】



角館武家屋敷【新緑】



角館武家屋敷【紅葉】



角館祭りのやま行事



大きさ日本一 西明寺栗



インバウンドグリーンツーリズム

東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム パネルディスカッション資料

各市町の概要説明と主な取組



the most beautiful
villages
in japan

山形県飯豊町長
後藤 幸平



飯豊町の概要①

飯豊町（いいでまち）は、山形県の南西部に位置し、総面積のうち、8割以上が緑豊かな山林が占める。

山形県の母なる川である最上川の源流、置賜白川が町内を南北に貫流し、その清流沿いに稲作地帯が広がる自然溢れる町である。

白川流域の肥沃な扇状地には、豊かな稲作地帯が形成され、屋敷林と家屋が点在し、水田と見事に調和した美しい田園散居集落景観が広がる景観が特徴である。

人口：7,304人

世帯数：2,198世帯

面積：329.41km²（人口密度22.2人/km²）

高齢化率：34.7%

（※数値は平成27年国勢調査値）



飯豊町の概要②

飯豊町（いいでまち）は、ブランド和牛として名高い「米沢牛」の生産量の約4割を占める主生産地である。

また、平成27年度、国内屈指のリチウムイオン電池の研究開発拠点として、「山形大学xEV飯豊研究センター」を開設した。国内外の企業と連携しながら、リチウムイオン電池の開発と安全評価、電動機器の開発を行っている。今後は、一連の「飯豊電池バレー構想」を推進し、今後、貸工場の整備と関連企業の誘致に取り組んでいく。



SDGs未来都市の取組





東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム

パネルディスカッション資料 SDGs未来都市の取組み

東松島市長 渥美 巖



HigashiMatsushima

SDGs未来都市 東松島市



1 震災復興事業

6 安全な水とトイレを世界中に
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
17 パートナリシップで目標を達成しよう

防災集団移転と多重防御

11 住み続けられるまちづくりを

東日本大震災復興祈念公園

4 質の高い教育をみんなに
15 陸の豊かさも守ろう

森の小学校と復興の森

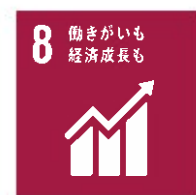
7 再生可能エネルギーを拡大して持続可能なエネルギーに
13 気候変動に具体的な対策を

地域新電力とスマート防災エコタウン



2 創造的震災復興 (人口減少対策、交流人口増加)

人口減少対策として、
タイケン学園グループとの連携



8 働きがいも
経済成長も



15 陸の豊かさも
守ろう



11 住み続けられる
まちづくりを



矢本海浜緑地パークゴルフ場



ツール・ド・東北



2 創造的震災復興（子育て支援）

5 ジェンダー平等を
推進しよう 

4 質の高い教育を
みんなに 

11 住み続けられる
まちづくりを 



ウェルネス保育園矢本



ひかり保育園



赤井南小学校放課後児童クラブ



2 月 供 用 開 始 の
放 課 後 児 童 ク ラ ブ

- ・ 矢本東小学校
- ・ 矢本西小学校
- ・ 赤井小学校



3 震災を契機とした海外との連携

震災と復興の経験を世界の人々と共有し、持続可能なまちづくりをともに目指して



バンダ・アチエ市（インドネシア）との
相互復興プログラム



フィリピン台風ヨランダ被災地支援



デンマーク王国およびロラン市との連携



2020東京五輪・パラリンピック
デンマーク復興ありがとうホストタウン



SDGs未来都市へ

SDGs未来都市とは...

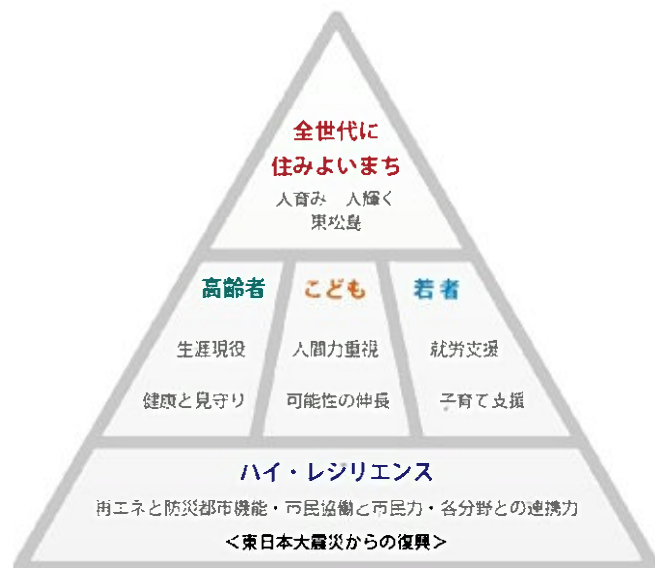
「環境未来都市」構想をさらに発展させ、新たにSDGsの手法を取り入れて戦略的に地方創生を進めていく未来都市として、全国から29都市選定。



2018年6月「SDGs未来都市」選定証授与式

東松島市が目指す2030年のあるべき姿は

「全世代に住みよいまち」



東松島市の人口動態 (毎年1月1日現在)

平成25年	40,221人
平成28年	40,222人
平成30年	40,116人
(H30-H25対比)	△105人



宮城県東松島市

SDGsの理念のもと

復興のモデル都市から



地方創生のモデル都市へ



SDGs未来都市仙北市の取組み紹介

SDGs未来都市の取組み

秋田県仙北市長 門脇光浩



仙北市SDGsの取組み（経過）

平成26年

- 8月27日 内閣府へ国家戦略特区提案書を提出**
田沢湖・玉川温泉を中核とした医療・農林ツーリズム特区
～世界最高の湯治拠点・岩盤浴場のための岩盤規制撤廃！



平成27年

- 2月13日 近未来技術実証特区への事業提案書を提出**
無人航空機（ドローン）に関する提案

仙北市SDGsのキーワード「IoT」



- 8月28日 国家戦略特区の正式指定**
地方創生特区・近未来技術実証特区のダブル指定

平成29年

- 8月1日 東北大学大学院環境科学研究科との連携協定締結**
エネルギー、資源の地産地活による産業振興等について連携

- 11月 玉川温泉水からの水素生成実験に成功**
東北大学大学院の土屋教授が、アルミニウムを利用して、電力を利用することなく、二酸化炭素も排出しない水素生成に成功

仙北市SDGsのキーワード「水素エネルギー」



仙北市SDGsの取組み（経過）

平成30年

- 3月23日 「SDGs未来都市等提案書」を内閣府へ提出**
仙北市SDGsモデル事業の提案内容をまとめ、内閣府へ提出しました。
- 4月17日 仙北市持続可能な開発目標（SDGs）推進本部を設置**
地域課題解決の加速化と第2次仙北市総合計画に掲げる施策を着実に推進するため、市長を本部長とした推進本部を設置しました。
- 5月14日 第1回仙北市持続可能な開発目標（SDGs）推進本部会議**
持続可能な開発目標(SDGs)について自治体の役割について情報共有し、仙北市として目標達成に向けた取組方針の検討を開始しました。
- 6月8日 第1回SDGsワーキンググループ会議**
持続可能な開発目標(SDGs)について自治体の役割について情報共有し、仙北市として目標達成に向けた取組方針の検討を開始しました。
- 6月15日 SDGs未来都市認定証授与式に市長が出席**
首相官邸にて、認定証を授与されました。



仙北市SDGsの取組み（経過）

6月27日 第2回SDGsワーキンググループ会議

仙北市における持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた取組みの基本方針、仙北市独自の17のSDGsのゴールに対するKPI(重要業績評価指標)等の策定を策定しました。

8月31日 仙北市SDGs未来都市計画（第1版）を策定

9月3日 第2回仙北市持続可能な開発目標（SDGs）推進本部会議

ワーキンググループの活動状況について報告し、仙北市SDGs未来都市計画の策定について報告しました。

9月11日 仙北市SDGs未来都市計画を公表

仙北市SDGs未来都市計画を仙北市議会へ提出し、仙北市公式ホームページへ掲載しました。

10月4日 東北SDGs未来都市サミット発足

SDGs未来都市の選定を受けた東北地方の3市町（仙北市、宮城県東松島市、山形県飯豊町）が連携し、切磋琢磨して相乗効果を生み出すとともに、SDGsの取組の加速および普及啓発を目的として、「東北SDGs未来都市サミット」を発足しました。

10月9日 第3回SDGsワーキンググループ会議

仙北市SDGs未来都市宣言・ミニシンポジウムの企画について協議しました。



仙北市SDGsの取組み（経過）

1 1月24日 仙北市SDGs未来都市宣言・ミニシンポジウム開催

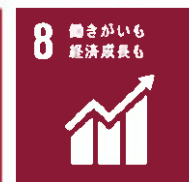
ゲストや講師によるSDGsの解説と市内外の先進的な取組事例に学び、市民への理解を深めることと併せて、SDGs未来都市に選定された地方自治体における取組の推進及び先行的なモデル事例として、全国的な周知を目的に、シンポジウムを開催しました。



今後の方針（仙北市SDGs未来都市計画の推進）

①近未来技術による夢のあるまちづくり

- ・小学校でのドローンによるプログラミング学習
- ・近未来技術を活用した事業創造モデルの確立



②「温泉×健康」による持続可能なまちづくり

- ・地域資源を利用したヘルスケア産業の創出
- ・ヘルスケアツーリズムによるインバウンド誘客



③田沢湖再生の加速化

- ・湖畔の清掃や大学と連携した水質調査による環境修復



④IoTの導入による農業生産性の向上と耕作放棄地削減

- ・大規模ほ場へのセンサー、通信技術やドローンの導入による生産性向上



⑤水素エネルギーの活用による産業振興

- ・東北大学大学院環境科学研究科との連携による水素エネルギーの地産地活モデルを構築



東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム パネルディスカッション資料

SDGs未来都市の取組み

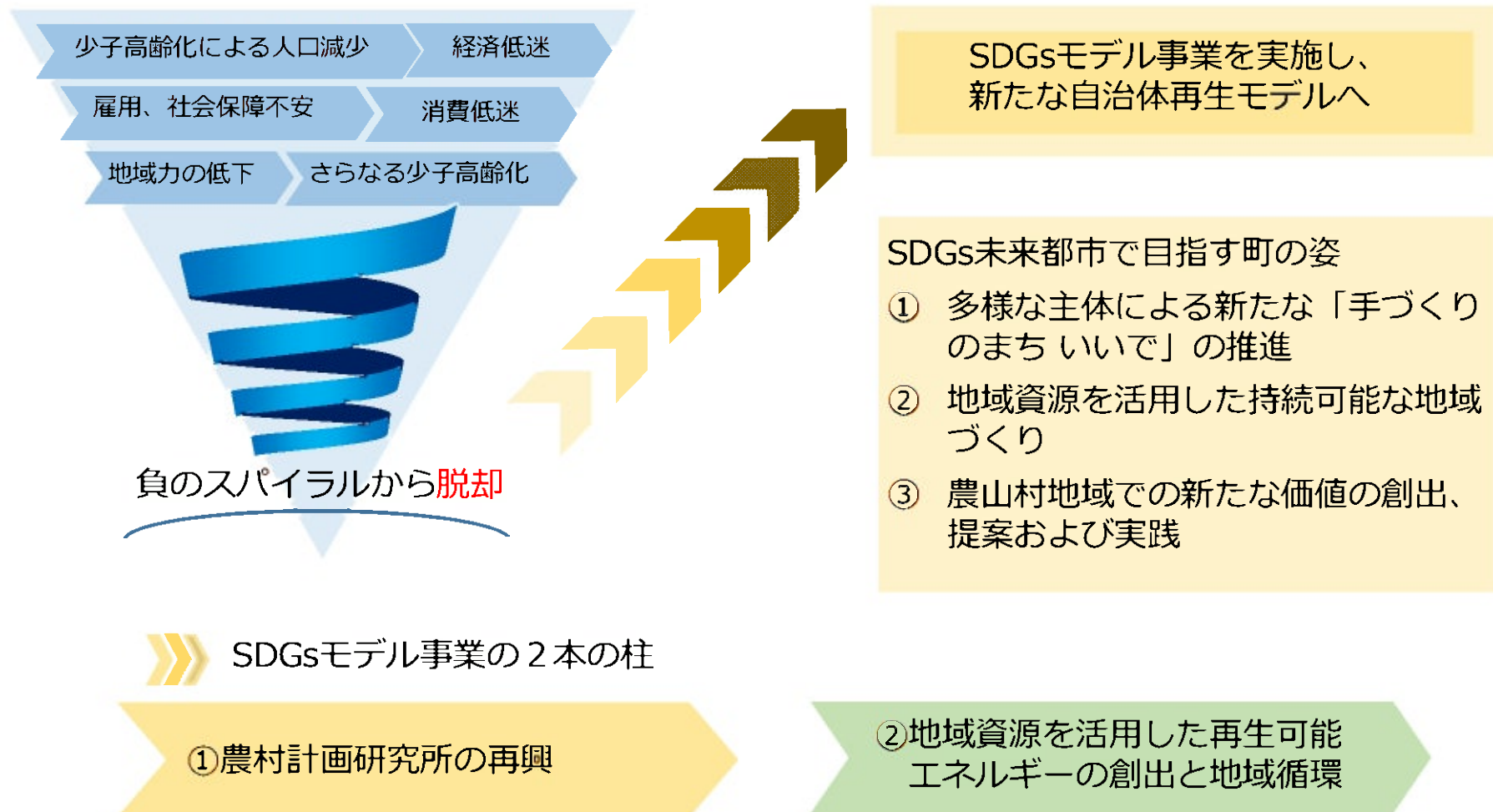


the most beautiful
villages
in japan

山形県飯豊町長
後藤 幸平



飯豊町がSDGsモデル事業で目指す町の未来像



- 第一次総合計画「住民参加のまちづくり」
- 地区の総点検を目的とした日本初のワークショップ「椿講」

まちづくりの当初から、住民参加型の「手づくりのまちいいで」を推進

昭和59年、
日本で初めて町立の農村計画研究所を設立

- 単なる農業生産の場ではなく、国土保全、生活、環境等の空間機能を果たす計画と手法の検討
- 地元密着型の研究を進めるための場として

近年では



- 少子高齢化等による農山村の地域力低下
- 地域づくりの主体となる担い手の継承
- 豊かな農山村景観の保全

「手づくりのまち」を発展、継承した上で、
現状の課題を解決するため



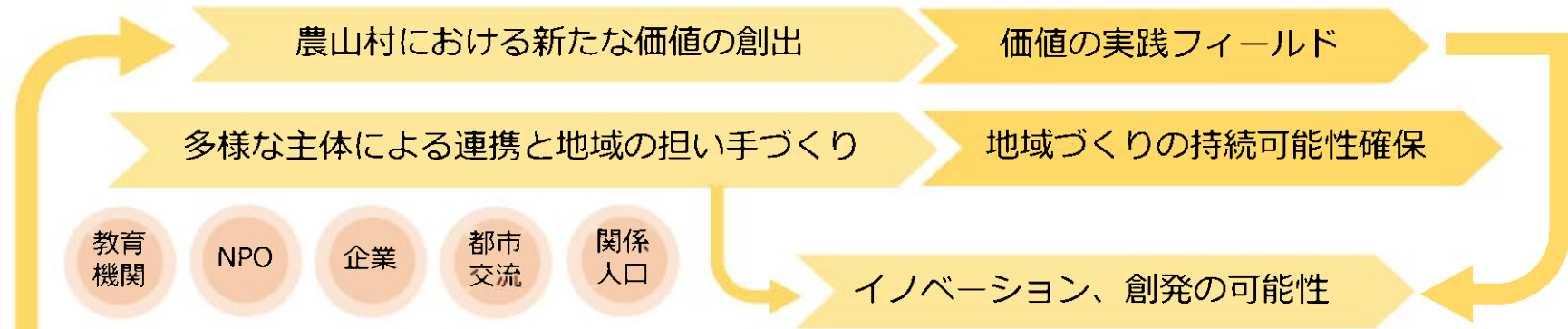
新たなステージでのまちづくりを担う
べく「**農村計画研究所**」の再興へ



設立当初の農村計画研究所



2代目の農村計画研究所



新国富指標等の新たな指標
による価値の付与

【2つの基盤要素】

学術資料の関連文献の
整理、所蔵による学習と
研究のアーカイブ施設

住民を含めた多様な地域づ
くり主体の活動、交流、学
習、創造の拠点



出典：持続可能な地域の豊かさを知ろうEvaCva-sustainable
(<https://evacva.net/>)

平成12（2000）年
地域新エネルギービジョン

平成20（2008）年
バイオスタウン構想策定

平成29（2017）年
バイオマス産業都市認定

木質バイオマス
利活用



町木質バイオマ
ス製造施設

既存の
産業との連携



山形大学xEV飯豊
研究センター

家畜排せつ物
等のバイオガス利用



バイオガス
発電設備

家畜排せつ物
等の堆肥化



町有機肥料
センター

その他再生可能
エネルギー活用



雪室低温貯蔵
施設

バイオマス資源など地域資源活用

持続可能な社会の構築

町内や圏域内での資源循環

経済的自立への寄与

既存産業との連携

新産業の創出、イノベーションへ



2030年も「日本で最も美しい村」でありつづけるために

